

広島市植物公園におけるソウシチョウの記録

佐藤祐輔・向井昭彦

広島市植物公園（以下、植物公園）でソウシチョウを確認したので報告する。

はじめに

ソウシチョウ *Leiothrix lutea* は中国南部、ベトナム北部、ミャンマー北部、インドアッサム地方、ヒマラヤ西部などに分布するチメドリ科の鳥である。姿が美しく鳴き声も良いため、古くから観賞用の飼い鳥として輸入されていたが、飼育個体の逸出や業者による放鳥によって1980年代から日本に定着したと考えられている。ウグイスなどの在来種と競合し（江口・天野 2007）、生態系に悪影響を与えると懸念されているため、外来生物法で特定外来生物に指定されている。

広島県下では、臥龍山や十方山など西中国山地でソウシチョウが確認されている（上野ほか 2004）。日本国内では下層植生の発達した森林のササ群落中に営巣することが知られており、十方山林道において繁殖が確認されている（上野ほか 2005）。

記録

2020年11月16日11時頃、植物公園内の苗圃場にある50tポンプ小屋付近の地面でソウシチョウの死体を発見した（図1）。死体は記録のため写真撮影を行ったのち、すみやかに土に埋めた。

また、2020年12月20日12時頃、植物公園内の日本庭園に設置してある野鳥用餌台でソウシチョウが複数頭採餌していたのを確認した。

考察

植物公園では、園内に生息している鳥類の調査が行われており、計55種を確認している（二月会 1989、大丸 2004）。この調査結果の中にはソウシチョウは含まれていないため、本稿が植物公園における本種の初報告となる。しかし、野鳥観察を目的とした来園者から2年ほど前よりソウシチョウを日本庭園の野鳥用餌台で見たことがあると話を伺っているため、本稿は初報告ではあるが初記録ではない。

ソウシチョウは秋から冬にかけて越冬のため標高の高い場所から低い場所に分散すると考えられており（東條 1994）、今回の記録が2回とも冬季でかつ植物公園は低地であることから、ソウシチョウが植物公園で越冬している可能性が高いと考えられる。

また、今回確認したソウシチョウは、ポンプ小屋の窓ガラスに誤って追突し死亡したと推測される個体と餌台で採餌している複数の個体のみで、いずれも冬季の非繁殖期なため、植物公園内で繁殖しているかは明らかではない。ソウシチョウは繁殖期の4月から10月にかけて標高の高い森林中のササ群落を営巣場所とする。植物公園は低地に位置してはいるが丘陵地で常緑樹と落葉樹の混じる林を有しており、境界部法面の林床はネザサ *Pleioblastus argenteostriatus* を主とするササ群落があるため、植物公園がソウシチョウ営巣場所となる可能性が絶対に無いとは断言できないと思われる。さらに植物公園内にはウグイス等ソウシチョウと競合する在来種が生息しているため、今後の園内におけるソウシチョウの動向には注意が必要だと考えられる。

引用文献

- 上野吉雄・荒木信・小柴正記・日比野政彦 2004. 西中国山地におけるソウシチョウの生息状況. 高原の自然史 9: 111-121.
- 上野吉雄・荒木信・小柴正記・日比野政彦 2005. 西中国山地におけるソウシチョウの営巣初確認と生息状況. 高原の自然史 10・11: 135-141.
- 江口和洋・天野一葉 2008. ソウシチョウの間接効果によるウグイスの繁殖成功の低下. 日本鳥学会誌 57(1): 3-10.
- 大丸秀士 2004. 広島市植物公園の野鳥, 広島市植物公園栽培記録 25: 41-48.
- 東條一史 1994. 筑波山塊におけるソウシチョウ *Leiothrix lutea* の増加. 日本鳥学会誌 43(1): 39-42.
- 二月会 1989. 園内で観察される昆虫および野鳥について. 広島市植物公園栽培記録 10: 1-4.



図1 ソウシチョウの死体